

令和4年度(2022年度)
学校自己評価報告書

令和5年(2023年)6月

学校法人電波学園
名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校

MEIGAISEN

《学校自己点検評価委員会》

委員長	小川 義則	(校長)
副委員長	伊藤 洋子	(教務部長)
実施責任者	矢島 親男	(教務科長/商業実務専門課程責任者)
委員	坂口 大介	(文化教養専門課程責任者/英語科)
	市石 浩久	(国際ホテル科)
	金井美香子	(ブライダル科)
	村瀬 聖治	(教務科)
	伊東 沙織	(国際エアライン科)
	金井 翼	(国際ホテル科)
	加藤 舞	(国際エアライン科)
	神谷 公司	(事務部長)

I	学校の現況	P 1
II	評価の基本方針	P 2
III	教育目標・重点目標	P 3
IV	評価項目の達成及び取組状況	P 4
	(1) 教育理念・目標	P 4
	(2) 学校運営	P 5
	(3) 教育活動	P 6
	(4) 学修成果	P 8
	(5) 学生支援	P 9
	(6) 教育環境	P 10
	(7) 学生の受入れ募集	P 11
	(8) 財務	P 12
	(9) 法令等の遵守	P 13
	(10) 社会貢献・地域貢献	P 14
	(11) 国際交流	P 15
V	学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	P 16

I 学校の現況

- (1) 学校名 名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校
- (2) 所在地 名古屋市千種区今池五丁目24番4号
- (3) 沿革
- | | |
|---------|--|
| 平成 3年4月 | 名古屋市千種区今池に名古屋外語専門学校を開校
文化教養専門課程 実用英語科を設置 |
| 平成 6年4月 | 商業実務専門課程 国際ビジネス科設置 |
| 平成 9年4月 | 実用英語科を外国語学科に改称 |
| 平成11年4月 | 外国語学科に英語コースとエアラインコースを設置 |
| 平成16年4月 | 国際ビジネス科をホテル観光科に改称 |
| 平成20年4月 | ホテル観光科にブライダルコースを設置 |
| 平成22年4月 | 新校舎(現1号館)完成
外国語学科を廃科し、国際エアライン科、英語科、
ブライダル学科を設置 |
| 平成24年4月 | 名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校へ校名を改称 |
| 平成25年4月 | ホテル観光科を国際ホテル科に、ブライダル学科を
ブライダル科にそれぞれ改称 |
| 平成27年4月 | 国際エアライン科に航空ビジネスコースを設置 |
| 平成28年4月 | 国際エアライン科 航空ビジネスコースの学生募集を停止し
航空ビジネス科を設置 |
| 令和 2年3月 | 航空ビジネス科を廃科 |
| 令和 2年4月 | 英語本科(四年制課程)を設置 |
- (4) 学科の構成
- | | | |
|----------|----------|-----|
| 文化教養専門課程 | 英語本科 | 昼間部 |
| 文化教養専門課程 | 英語科 | 昼間部 |
| 文化教養専門課程 | 国際エアライン科 | 昼間部 |
| 商業実務専門課程 | ブライダル科 | 昼間部 |
| 商業実務専門課程 | 国際ホテル科 | 昼間部 |

(5) 学生数および教職員数

学生数:283名 教員数:専任15名、講師31名 職員数:3名

(6) 施設の概要

【1号館】

普通教室、エントランス、来客ラウンジ、学生ラウンジ、モックアップ実室
エアポート実習室、児童英会話実習室、レストラン・バーカウンター実習室、
英会話実習室、パウダー実習室、バンケット実習室、ゲストルーム、衣裳室
ブライダルサロン、チャペル、ホテルフロント実習スペース、多目的ホール、
音楽スタジオ、カウンセリングルーム、図書室、事務室

【2号館】

普通教室、パソコン実習室、保健室、校長室、職員室、講師室

Ⅱ 評価の基本方針

- ・学校としての組織的な取り組みや成果を調査し、現状や評価できる点、問題点および今後の方策や改善スケジュールを導き出す。
- ・教育水準の向上と保証を図る。
- ・教職員が課題意識を共有する。
- ・家庭や地域に支えられる開かれた学校を築き、相互理解を深める。
- ・「ありがとう」と周囲から感謝される学校づくりに役立てる。
- ・個人情報保護や安全確保に留意して作成する。
- ・具体的なデータに基づき客観的に評価する。
- ・学校自己評価を実施して終わりではなく、教育活動や学校運営の改善につなげる。

Ⅲ 教育目標・重点目標

- (1) 本学園の建学の精神は「社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」である。それに基づき、校訓である「国際性・積極性・協調性」を教育信条にして知識・技術・態度を養うことで、社会の一員にふさわしい資質を育てる。
- (2) 本校の学生たちは、航空業界、ホテル業界、ブライダル業界などサービス業界への就職を目指している。それらの業界で求められる基礎知識、および専門知識を十分に教授する。また、グローバル社会に対応できる英語運用能力と国際人としてのマナー、豊かな創造力と応用力のある人財を育成する。
- (3) 本校は“ホスピタリティ教育”を軸に、社会の情勢、変革などを見極めながら毎日の学校生活の中で「建学の精神」を指導、実践する。
特に企業から歓迎される「人柄」、つまりチームにおける協調性や、組織に対する貢献を強く意識できる人財を育てる。

IV. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	④	3	2	1
○学校における職業教育の特色は定められているか	④	3	2	1
○社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
○学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者・関係業界等に周知されているか	4	③	2	1
○各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

《現況》

完全担任制を採用し、「専門スキル＋語学力＋人間力」を教育目標に学級運営を行っている。特にチームワークについて深く学び、仲間と協働することに価値を見い出せる学生を育てている。また、学科に対応する業界のニーズに応えるため、企業の担当者、保護者を迎え教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会を行い、教育理念・目標に反映するようにしている。

《課題と改善策》

上記「人間力」、「チームワーク」を育てる手法として、授業内でのグループワーク、学外研修、課外活動、学校行事などを主なものとしてきた。コロナ禍がピークの中においては本校の理想とする運営は難しかったものの、少しずつ状況は改善され、令和4年度については、ほとんど「対面」で授業を進めることが可能となった。そのため、本校の理念であるホスピタリティマインドを、以前のように“直接指導”することができたと実感している。また、コロナ禍の副産物でもあるが、インフラが整備されたことにより、海外とのオンライン通信を、以前より高い精度（高スピード、高画質、高音質）で配信することが可能となったことから、留学している在校生の声を、下級生やオープンキャンパス参加の高校生にスムーズに届けることができた。こういったことから、以前のように内外に本校の教育活動をアピールする機会に恵まれてきたため、更に多くの人に本校の強みを見せることができるようにしたいと、SNSの発信やホームページの改善、地域貢献に力を入れている最中である。

《特記事項》

特になし

(2) 学校運営

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
○運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
○運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
○人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
○教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
○業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
○教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
○情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

《現況》

年度始めに理事長および学校長から全教職員に「運営方針」が発表される。その方針に従い、前年度中に計画された事業計画とともに学校運営に当たっている。意思決定等についても運営会議、協議会、各種委員会などの組織が確立され、有効に機能している。さらには電波学園中長期計画に基づき、本校のロードマップ委員会を設置。5年後の目標を策定し達成に向け取り組んでいる。

《課題と改善策》

校内の課題である次期リーダーづくりを進めている。具体的には、科や個人のスキル任せになっていた業務内容の明確化や、組織づくりとしての教務科への業務移行を行っており、誰が見ても（誰が何をしているか）わかりやすい職務分掌にするよう動いている。また、年齢的にはまだ若い層（30代）となる教員にも、適性があると思われれば業務知識や管理能力の伝授を進めていきたいと考えている。

《特記事項》

特になし

(3) 教育活動

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
○教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
○学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
○キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
○関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
○関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
○授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
○職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
○成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
○資格取得等に対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
○人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
○関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
○関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
○職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

《現況》

職業実践専門課程認定学科設置校として各科毎に教育課程編成委員会を設置し、カリキュラムの内容について検討している。また、関連分野における知識と技能を習得できるよう業界の実務経験者を配置し教育を行っている。

教職員の資質向上については、各分野の関係企業の担当者による講話や、電波学園姉妹校間授業見学研修会、さらにフィリピン航空 CA トレーニング等への参加で授業力のブラッシュアップに役立っている。

《課題と改善策》

令和 4 年度は、まだ若干コロナ禍による影響は残っていたものの、英語本科の長期留学実現を皮切りに、東京ディズニーリゾートへのレクリエーションディ (2 日間)、国際エアライン科のフィリピン研修、ブライダル科と国際ホテル科の国内研修 (3 学科それぞれ約 1 週間)、英語科の短期留学 (約 2 週間) と、前年度までは実施できなかった宿泊による研修等を企画することができた。また、人との接触の多いパフォーマンス内容を含む学校祭も実施することができ、確実にコロナ前の生活に戻ってきている。教育課程表内に記載されているカリキュラムを本来の形で全て履修させることができ、本校の教育活動としては支障の無い 1 年であったと思われる。ただし、あくまで学内での評価であり、評価項目内の学外からの評価や研修等には、まだ弱い部分があるため、今後はこういったところを改善していくよう検討していく。令和 5 年度は更にコロナ以前と同様な活動となるよう、学校行事運営等を計画していく。

《特記事項》

英語本科第 1 期生 (令和 5 年度 4 年生) は、令和 5 年 4 月に 2 名が帰国し、これで 9 名全員が長期留学から帰国。現在、第 1 期生は、進路を定めている最中であるが、再び留学を検討している者もいるため、今後については本人の希望に沿った進路指導をしている。英語本科第 2 期生 (令和 5 年度 3 年生) は、令和 5 年 6 月に最後の 1 名が旅立ち、9 名全員を留学させることができた。しかしながら、本校は外国籍である学生も在籍しており、出身によっては留学ビザが下りず、長期留学が叶わなかった学生もいた (半年間の短期留学で対応)。また、留学はしたものの、金銭的な問題で本来のカリキュラム全てを修めることができず、途中で帰国予定という学生もいる。

英語本科は令和 5 年に完成年度を迎えたが、上記したビザの問題や金銭的な問題等、留学を企画・実施して初めて分かることや、イレギュラーなことに対する法整備 (教務規定として) を、常にバージョンアップしていく必要があることを痛感している。

(4) 学修成果

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
○資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
○退学率の低減が図られているか	4	3	②	1
○卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
○卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1

《現況》

一番の大きな変化は、航空業界の復活であろう。令和3年度、国際エアライン科の航空業界への就職は14%、CAの内定は0名であったが、令和4年度の航空業界への就職は約91%、CAの内定は4名となり、コロナ前の状況とほぼ同じ数値となった。更にCAには卒業生も8名が内定し、本校の教育方針である「なりたいものになる」を実践できた結果だと思っている。また全学科、年度内に就職希望者の内定を100%決定することができた。他の学科の関連企業への就職も、英語科は約65%、ブライダル科は約97%、国際ホテル科も約94%と、同種他校と比較しても胸を張れる結果を残している。

退学率については令和3年度の8.07%と比較し、令和4年度は7.78%の微減となり、大きく減少させることはできなかった。退学の理由はそれぞれあり、要員を特定してすぐに実践というわけにはいかないが、前年度同様、年度末での退学する者が目立ったことは本当に遺憾である。

英語資格については、令和4年度に本校開校以来、初めて英検一級取得者を1名輩出。英検準一級は6名、TOEIC 900点以上3名、800点台9名、700点台21名、600点台32名の結果を出すことができた。残念ながら学生数が減少してきているため、合格者数としては前年度を下回っているものの、全体の合格率は、ほぼ前年度同様の数値となっており、今後もきめ細かい指導を続けていく。

《課題と改善策》

就職および検定取得率については、問題の無い1年であったと思われる。

退学率については、昨年度からの対策が功をなさず、前年度より微減はしているものの、不本意な結果となった。令和5年度は担任配置に工夫をただけでなく、欠席が増えてきた学生に対し、早期の管理監督者面談を実施。対象学生のバックボーンや性格も含め、科、担任からの情報を吸い上げ、退学の兆候を早期に発見する。

《特記事項》

特になし

(5) 学生支援

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○進学・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
○学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	③	2	1
○学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
○課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
○父母等と適切に連携しているか	4	③	2	1
○卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
○社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
○高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1
○関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等を行っているか	4	③	2	1

《現況》

就職指導については、各科において企業別や職種別に徹底的にサポートを行っている。具体的には入学当初から就職活動の啓蒙、1年次後期から学内企業説明会を開催。授業後の面接対策補講やカウンセリングは内定を得るまで手厚く行っている。また、毎年教育懇談会を開催し、父母等にも各業界の特徴を理解いただきながら指導にあたっている。

《課題と改善策》

授業だけでなく就職活動においてもコロナ禍からの影響は薄れてきており、会社説明会、採用面接、内定後の研修等は以前のように対面での実施がほとんどとなった。キャリアセンターが設置されていない本校において、各科、担任は、それぞれの学科、クラスの就職指導を、的確に且つ力を惜しまず実施している。しかしながら、年々教職員の学生指導に対するスキルは向上しているものの、マンパワーの不足が続いており、退学防止を含めた学生指導・面談の増加も重なり、1人に対する業務負担が増加しているという課題は残っている。

英語本科の留学はコロナ禍の合間を縫って順調に実施されたものの、渡航費用はコロナ前と比較して1.5倍程度に増加してしまっている。入学前の予定と違ってしまったという家庭がほとんどであったと思われるが、連絡を密にし、金銭的な事情による退学の減少に繋げるよう努力している。

《特記事項》

特になし

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
○施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
○学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
○防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

《現況》

施設は各分野の現場を想定した実習室を完備している。具体的にはエアポート実習室、モックアップ実習室、児童英会話実習室、レストラン・バーカウンター実習室、ブライダルサロン、チャペル、バンケット実習室などである。これらは現場の意見を参考に年度毎に施設設備の充実を図っている。

インターンシップについては、ホテル、空港(グランドスタッフ)、児童英会話教室、小学校(授業補佐)など、実際の現場でプロから学べるよう実習先を確保している。また、毎年実施している海外研修の内容は各学科の特色を活かしたものであり、職業実践教育の観点ではクオリティの高いものである。

《課題と改善策》

令和4年度は、全学科で留学・研修を実施することができた。ブライダル科および国際ホテル科については、例年の海外研修を国内研修に変更しての実施。渡航費用のことを考え、各家庭に無理のない計画とした。教育環境はハード、ソフトともに、競合他校と比較して遜色無いものであろうと推測されるが、常にブラッシュアップする意識を忘れないようにする。

防災については例年どおり、危機管理マニュアルを生かし、日頃から有事に生かせるよう準備を整えておく。

《特記事項》

平成30年度からシェイクアウト（地震防災）訓練を実施。令和5年度より、学校全体の行事として、全館放送で実施予定。

また、本校は災害時の緊急避難場所等として地域社会に協力する旨の「大規模災害時における地域と事業所との支援協力に関する覚書」を結んでいる。

（7）学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
○高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	④	3	2	1
○学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
○学生募集活動において、教育成果（資格取得・就職状況等）は正確に伝えられているか	④	3	2	1
○学生納付金は妥当なものとなっているか	4	③	2	1

《現況》

高校の進路指導室訪問、高校での進学説明会等で、就職実績、資格取得状況等の正確な情報提供を行っている。学生募集活動の要であるオープンキャンパス・学校見学会では、各科から多くの在校生が「お手伝いスタッフ」として参加協力し、高校生に生の声を届けてくれている。

学生納付金については、国内外の研修費以外の在学中に徴収する納付金全てを募集要項に記載しており、卒業までの費用を分かりやすく表示してあるが、評価項目としての「妥当なものか」の判断は難しいと思われる。価格高騰の中において、学費は数年間据え置きしており、教育環境の充実を含めると、単純に他校との金額比較だけでは答えを出せない。

《課題と改善策》

募集活動については更に厳しい状況になってきており、3年連続して大幅な入学者減となった。この要因として18歳人口の減少も挙げられるが、コロナ禍による「サービス業」へのイメージダウンを払拭できないことも大きな問題点であると考え。そのため、高校ガイダンスや高校の進路訪問時においては、サービス業の復興・好況状況を大きくアピールしているものの、オープンキャンパスにおいては以前のような賑わいはまだ戻ってきていない。航空業界の復興により、多くの学生が夢を叶えていること等、高校生やその家族に印象付けることはできないかと常にアイデアを絞っている。

《特記事項》

学生募集時の情報提供は正確かつ誠実であるべきと考えている。入学者の卒業後まで考えた真摯な学生募集でありたい。修学費用の掲載や説明は常にオープンなものとしている。

(8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
○中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
○予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	③	2	1
○財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
○財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

《現況》

- ・3年連続の学生減であり、年度単位では支出超過となってしまった。
- ・収入、支出を予算化することにより、収支バランスの把握には努めているものの、学生減による収入減を埋めるところまでは至っていない。

《課題と改善策》

- ・中長期的な財務基盤の安定について、今後の学内組織の変更、教職員の構成の見直し、経費節減等の施策を実施していく。
- ・収入、支出を目的ごとに予算化しているが、ウクライナ情勢を含む外的な要因での光熱費等の物価高騰は、単純に予算化、経費節減だけでは対応できないところまできているのは事実である。できることは限られてしまうが、これまで以上に経費節減については意識を高めるよう努力する。
- ・令和5年度は更に原資が減少（学生減）する予定。SNSやホームページに力を注いでいるが、これに加え、令和6年度には新しい学科やコースを設置予定であり、募集活動には最善を尽くしていく。

《特記事項》

- ・会計監査は、毎年1回公認会計士により、会計帳簿、帳票伝票等並びに現金、貯蔵品等の証憑突合監査が行われている。また、内部監査規程による監査（年3回）を行っており、適正に実施されている。

財務情報は、私立学校法に従い、当該年度の財務諸表及び事業報告書を、毎年5月末日までに作成し、理事会の決議を経たのち学園のWebサイトにて「事業報告・財務情報」を毎年更新公開している。

（9）法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
○個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
○自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	③	2	1
○自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

《現況》

- ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営を行っている。
- ・個人情報に関するセキュリティポリシーに従って個人情報の管理等を行っており、個人情報に関する内部監査を実施している。
- ・自己評価結果を公表している。

《課題と改善策》

毎年各部門と協力し、自己評価の実施に臨んでいる。内部からは見えにくい改善点については、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会の意見を真摯に受け止めながらより良い教育環境づくりに努めたい。

《特記事項》

学園の教務委員会において、「学園教職員 SNS 使用時のガイドライン」、「学園各校の公式 SNS アカウント利用担当者に対するガイドライン」を設定し、そのガイドラインに沿って SNS 運用を実施している。また、委員会において「個人情報保護ガイドライン」を作成中。完成次第、ガイドラインに則った運営を行う。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
○学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
○学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
○地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

《現況》

高校との連携によるキャリア教育・職業教育の一環として、複数の高校からの依頼で高校生向けに「マナー講座」、「就職面接対策講座」を実施。また、高校教員対象の「就職面接指導のポイント講座」も行っている。また、SDGsの一環としてフィリピンのNGOと提携しフェアトレードを行った。今後も授業内でディスカッションをしながら、SDGsプロジェクトとして社会貢献について考えていきたい。また、夏休み中には子供向けのお仕事体験である「KIDS お仕事体験」を実施。学園関係者・卒業生に対してだけの“小さめ”の実施であったが大変盛況であったことから、令和5年度は近隣の小学校にも案内をし、地域貢献としての準備を進めている。

《課題と改善策》

本校の教育方針である「ホスピタリティマインド」の元、社会貢献・地域貢献に関しては学校として常に意識しており、学生の負荷を考えながら、できる限りの協力をしていく。

《特記事項》

ボランティア活動

- (1) コロナ禍による制限を大きく受けてしまったが、国際エアライン科の学生による歌と踊りのサークル「青春ガールズクワイア」が、地域振興策の一環として商業施設等の依頼を受けライブを行っている。
- (2) 国際エアライン科のフィリピン・マニラ研修では、貧困地区トンドにおいて幼稚園でのボランティアを行っている。

(11) 国際交流

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1			
○留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	③	2	1
○留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
○留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
○学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1

《現況》

国際交流については法人事務局国際交流室が主導で行い、依頼に応じて適宜対応している。

《課題と改善策》

本校の入学基準が日本語能力検定N2以上であるためなのか、希望があったとしても受け入れられないことが多かった。結果、令和5年度の留学生も令和4年度に続き「0」となった。しかしながら、令和5年度以降は学園として留学生の確保に全力を注ぐ方針が打ち出されており、本校も学園の方針に則り、令和6年度開設予定として準備している新学科は、新しい取り組みとして、留学生、外国籍の学生対象学科としての設置を検討している。既存の学科への入学は、学科内の授業進行を留学生用に合わせることは難しく、日本語力の低い留学生の入学に対しては今後の検討課題となるが、入学生の落ち込みが顕著である以上、本校としても対策を講じることが急務であると考えている。

《特記事項》

特になし

V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校はホスピタリティ教育を軸にグローバル社会に対応できる英語運用能力と国際人としてのマナー、豊かな創造力と応用力のある人財の育成を目標としている。

卒業後に目指す分野が航空業界、ホテル業界、ブライダル業界が中心である本校は、令和3年度までは大きくコロナ禍の影響を受けてきたが、令和4年度に入り、何度かのコロナ流行のピークはあったものの、経済は確実にコロナ前の状態に復興してきた。特に航空業界は採用の門戸を広げてくれたおかげで、CAに現役生を4名内定させることができた。また、本人たちが諦めなかったことが一番の要因だが、卒業生も8名のCA内定を勝ち取ることができ、「中部地区 No1 の就職実績」という本校の謳い文句に偽りなしの成果となった。英語科は留学ができるようになったことから、より「英語を使って仕事がしたい」という入学時の気持ちを思い出すことで、就職活動のモチベーションになっていった。これまで KIDS 英語の教員になっていった卒業生も多かったが、航空業界やホテル業界に就職した卒業生もいたことから、今後は更に他学科に跨っての就職も指導をしていく。ホテル業界やブライダル業界も、令和3年度までは厳しい状況が続いていたと思われるが、本校に対する信頼もあり、これまでと変わらない内定数をいただけたことに心から感謝をしたい。幸い、インバウンドの復活、そして対面での披露宴の挙行もこれまでどおり行われるようになったということで、本校に求人て来校される企業様からも「本当に忙しい、週末はスケジュールが埋まっている」という嬉しい悲鳴を伺うことができ、より一層“人材”の育成が必要であると身が引き締まる思いである。ただし、本来であれば募集には大きな力添えになるはずの業界の活性化ではあるが、少子化であるとはいうものの、前述してきたように現状、募集には上手く繋がっていない。学園本部から提出していただく、この地区の中学生、高校生の出生率データも拝見するが、その減少率より低い数字での入学者数となっており、本校の魅力をどう訴求していくかが、ここ数年の大きな課題となっている。留学生の確保も含めて、如何に入学者増に繋げるか… SNS やホームページが特効薬になるとは思えないが、全く更新されなければ見向いてもくれなくなるため、常に新しいものに目耳を立てている状態である。ただ、こういった Web 上での情報提供の必要性は強く感じるものの、この時間に多大な労力を取られていることも事実であり、学生指導を含めた職員への労働過多にも繋がってしまっている。

学習成果については、念願の英検一級を1名ではあるが取得させることができ、英検準一級6名、TOEIC900点台3名、800点台9名、700点台21名、600点台32名の実績を上げることができた。学習成果についていえば、単年度だけの実績ではなく、継続的な指導を続けていることから、毎年変わりのない実績を上げることができていると自負している。検定実績は対外的な PR としては、少しインパクトが薄くなっている感はあるが、今後も地道に指導を続けていきたい。

退学者率は 7.78%となり、目標の 5%以下を達成することができなかった。毎年のことであるが、金銭的な理由、精神的なものによる退学者が多く、前述した、進級が決まってからの年度末退学も減少していない。専門学校の平均的な退学率というものに対して、大きく離れた数字ではないのかもしれないが、「本校の指導に何か問題はなかったのか？」とは常に考えていかなければ、退学者減には繋がらず、入学者の増加が大きく見込めない以上、退学者減こそ本校の収入安定に直結することであることを職員全員が強く再認識しなければならない。

コロナ禍と言われ久しくなるが、国内の産業・経済は大きく動き出してきている。コロナの対応に追われた数年間であったが、今は逆に、現状の国内復興のスピードに対する対応に追われてしまっているようにも思われる。業界の復活を喜びつつ、如何に学生募集に繋げていくか… 常にアンテナを張りながら準備を怠らないようにしていきたい。

総合評価結果として、令和 4 年度は前年度同様、学生募集、退学者減少という点については、芳しい成果を上げることはできなかった。同種他校間での募集活動は更に激化し、今後は少子化により減少していく 18 歳人口へのアプローチだけでなく、留学生をどうやって入学させるかという時代に突入してきた。令和 5 年度以降は本校の立ち位置が大きく変わっていくことになっていくと思われる。とはいうものの、どのような形であれ、学園、本校の方針を変えることなく、且つ、どんな入学生に対しても、満足度の高い教育を提供していかなければならないという命題に変化はなく、難しいミッションではあるが、きめの細かい指導を続けていくために、教職員一同創意工夫と努力を続けていく。

以 上